



一般社団法人
宮城県理学療法士会
ニュース 2020 No.2
(通巻166号)

目次

巻頭言	1
協会賞受賞	5
新理事紹介	6
会費納入状況について	8
第11回一般社団法人宮城県理学療法士会 定期総会報告	9
各局・委員会からのおしらせ	10
コロナ禍における各施設の取り組み	15
臨床実習生への各施設での対応の工夫やポイント	18
リハビリテーション専門職協議会活動報告	19
全国都道府県士会 学校保健・特別支援教育担当者会議について	20
若手理学療法士活躍推進委員会報告	21
臨床実習指導者講習会について	23
宮城県理学療法士連盟 活動報告	24
令和2年度地域ケア会議推進リーダー・ 介護予防推進リーダー導入研修について	25
役員名簿	28

巻頭言

Digital Innovation 2020 情報をマネジメントすれば未来は見えてくる

会長 渡邊 好孝

2020年は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックをきっかけに、世界中の人々の日常は一変しました。

誰もがコロナ禍での社会構造に適應する義務を理性的に果たしつつも、個人の自由な時間と空間の余地が窮屈になったことで、感性が喜べない悶々とした日々を送っています。

21世紀のデジタルテクノロジーと周辺科学の進化によって、これまでの常識を覆す驚異的な期間でCOVID-19ワクチンは開発されています。大規模臨床試験でも好結果が証明され、まもなく量産化されるというニュースに明るい兆しを感じながらも、その有効性や安全性に一抹の不安を覚えるのも事実です。

そもそも、2020年は、2030年までに超越的な進化を遂げるデジタルテクノロジーを見据え、“新たな社会づくり”と“新しい生活様式”を推進させることが政策目標であったはずですが。

本年4月に発動されたCOVID-19緊急事態宣言により、教育現場ではオンラインでの授業が開始され、期せずして新常态（ニューノーマル）となりました。職種によってはテレワークが恒常化し、新しい常識が急展開しているようでもあります。同時に、ライフラインを支えるエッセンシャルワーカーの重要性が改めて見直される結果ともなりました。

いまだに、国家方針や地方行政はCOVID-19に擾乱されていますが、デジタルテクノロジーを社会と生活に浸透させる政策は、一気に加速しました。

今後も感染拡大に警戒を怠ることはできない状況ですが、2021年の東京オリンピック開催前までには、人類がCOVID-19を克服することを願うばかりです。

第11回一般社団法人宮城県理学療法士会総会は、例年より約4ヶ月遅れの9月27日に開催し、新役員と本年度事業は承認されました。

COVID-19の影響によって上半期事業は、ほとんどが未実施となりました。総会後から、遅れを取り戻すための努力をしていますが、なかなか例年通りとはならない現実もあります。

2020年度の宮城県理学療法士会（MPTA）活動の重点事項は、ICTを活用し地域による各種事業や情報サービスの格差を少なくすることを目指します。まずは、2021年度内に現行の新人教育プログラムを全会員が修了することを目指します。また、本年度は2022年4月から開始される新生涯学習制度をわかりやすくお伝えし、全会員が登録理学療法士（日本理学療法士協会としての最低限の質の担保）に取り組める環境を整備します。

また、これまでは主に仙台市で開催されておりました各種研修会等を、地区担当局

域内でも受講できる仕組みの実現を目指します。地区担当局による地区活動をより活性化するために、各地区内には MPTA 理事会と連動する組織体制を整備する必要がありますと考えています。

PT の knowledge management のために、デジタルネットワークによって情報を繋ぐこと、繋がった仲間を支援し合えるコミュニテ

ィーづくりを推進することが、MPTA の未来への投資と考えています。

2020 年度は、PT に関連する情報をマネジメントする能力と感性を高め、これまでの組織を発展的に見直し、Innovation します。

理事会では“MPTA 新時代構想”を話し合っております。随時、皆様にも情報を提供しますので、ご意見等をいただければ幸いです。

「Digital Innovation による近未来の日本社会」 すでに起こっている未来を政策などから推察

【新しい生活様式】

厚生労働省は、新型コロナウイルス感染症専門家会議からの提言を受け、2020 年 5 月に、新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」の実践例^{注1}を公表しました。

内容は、①一人ひとりの基本的感染対策、②日常生活を営む上での基本的な生活様式、③日常生活の各場面別での生活様式、④働き方の新しいスタイルを、1枚のポスター形式でまとめたものです。

これらは、業種や自身の生活に合致する新しい生活様式を実践することによって、それぞれの日常で、自身や、周囲の人、地域を感染拡大から守る行動を促す指標となっています。

医療・介護保険領域で働くすべての職種は、人々の生活にとって必要不可欠な人材です。私たち PT も Essential Worker としての責務を果たすために、本年 2 月頃より徹底した感染予防対策の実践と職員の行動を厳格に規定したガイドラインを遵守する生活をしています。

COVID-19 の実態が科学的に解明され、終息すれば、この新しい生活様式の実践

例から残るものと消えるものが見えてきます。

【働き方改革】

働き方改革に関する総理発言・閣議決定^{注2}によれば、2016 年 9 月 21 日、ニューヨークでの金融・ビジネス関係者との安倍総理講演の結びに、「今を嘆くより、未来を見つめましょう。日本は高齢化しているかもしれませんが。日本は人口が減少しているかもしれませんが。しかし、我々に改革のインセンティブを与えています。我々は、生産性を高めようとして続けています。ロボットからワイヤレスセンサー、ビッグデータから AI まで、すべてのデジタル技術、新しいものを活用しようと思いつけています。ですから日本の人口動態は、逆説的ですが、重荷ではなく、ボーナスなのです」と述べています。

つまり、すでに起こっている少子超高齢社会の日本経済の構造改革のために、デジタル技術革命を加速させ、働き方の改革を国家プロジェクトとして推進していることを示唆しています。2017 年 12 月の“人生 100 年時代構想会議中間報告^{注3}”や、2018

年6月の“人づくり革命基本構想^{注4}”の発表からも推察できます。

【Digital Transformation:DX】

2018年12月、経済産業省はDXを推進するためのガイドライン^{注5}を発表しました。

DXとは、進化したデジタル技術をビジネスや暮らしに浸透させることで、働き方や生活をよりよいものへと変革するもので、既存の価値観や枠組みを根底から覆す革新によって、社会的な価値を新たにもたらすものです。

AI(人工知能)やIoT(モノのインターネット)、そして5G(第5世代移動通信システム)は、DX実現のために活用されているデジタルテクノロジーの代表です。

私たちの日常に、DXが急速にそして確実に浸透している要因は、2018年9月7日の経済産業省報告書『DXレポート～ITシステム「2025年の崖」の克服とDXの本格的な展開～』^{注6}には注目すべきことが記されています。

これには、日本は2025年までに国家戦略としてDXを推進しなければ、世界市場での競争力を失い、国内では最悪の場合は2025年以降、最大で年間12兆円(2018年の3倍)もの経済損失が生じる可能性があることを鑑み、DX推進にあたって企業の経営者向けのガイドラインを示し視点を整理したものとなっています。

DXを浸透させるためには、現状の様々な課題を克服し、2025年までにシステムを刷新しなければ、崖から落ちるがごとく企業や組織は衰退し、国力も低下することを示唆する内容と言えます。

DX推進は理学療法士の仕事にも直結します。Digital Native(世代)やGeneration Z(世代)が活躍するだろう20年後・30年後のMPTAはどうなっているのだろうかと思

いを馳せながら、これからの世代の仲間が活躍する姿を期待しています。

【デジタル・ニッポン2020】

自由民主党政務調査会デジタル社会推進特別委員会は、“デジタル・ニッポン2020”～コロナ時代のデジタル田園都市国家構想～デジタルライゼーション政策提言^{注6}をまとめ、2020年6月11日に公表しました。

この委員会は2001年にeJapan特命委員会として発足しました。

デジタル技術の進化によって、いつでも、どこにいても情報を手にすることができ、未来の教育や働き方などは柔軟になる。国民の生活の質が高く維持される「デジタル田園都市国家」は今後の目指すべき国家像になるのではないかとことです。構想の起源は1980年代からあったようです。

2010年からはDN(デジタル・ニッポン)を取りまとめ、政府に提言を重ねてきています。

今回の提言は、「COVID-19でおきたこと」、「危機から学ぶべきこと」、「2030年を見据えた概念」というフェーズで整理され、そのために必要な政策を総論5項目、各論13項目に分けた提言としてまとめられています。

MPTAの皆様には、COVID-19をきっかけとして変わるデジタル化推進を理解するために、「DXの推進」、「デジタルワーキングスタイル」、「ライフラインを支える人々」、「新たな教育の在り方」、「新たな医療の在り方」、「防災分野の進化」などに目を通していただきたい。

大都市一極集中社会から、住んでいる場所にとらわれずに、質の高い教育や仕事などを展開できる新常态(ニューノーマル)は、オンラインとオフラインのハイブリット型になることがコロナ禍で実践されました。

ニューノーマルな将来を“自分ごと”として見据えた行動を開始してほしいと思います。

【デジタル庁の新設】

2020年9月16日に発足しました菅義偉内閣は、行政のDXを推進するため、デジタル庁の新設を自身の目玉政策として掲げました。

“平時の便利・有事の安心”社会を目指し、政府・地方公共団体・国民のデジタル化を強力に牽引する、デジタル政策の司令塔組織です。

2020年11月17日、自由民主党政務調査会デジタル社会推進本部は、デジタル庁創設に向けた第一次提言(案)^{注7}を公表しました。

これは、2021年秋までにデジタル庁を創設することを目指し、政府に対し、提言への取り組み方法、ロードマップ等を具体化・明確化した対応を求めるものです。

社会全体のデジタル化に向けた施策として、我が国をデジタル技術により強靱化させ、我が国経済を再起動し、デジタル化の利便性を実感できる社会を創ることが必要です。そのためのシステム整備、マイナンバー・データの活用推進、デジタル庁の機能と権限についてなどが記されています。

準備室の段階から、前述しました、デジタル・ニッポン2020政策提言を基に、デジタル庁が担う2030年の大きなゴールと2025年までの今後の5年間の改革の工程表を2020年末までに示すことなど、新たな社会構造づくりを急ピッチに進める提言となっています。

【注】

2020.11.25 現在で確認できる政策などを紹介します。

注1:

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_newlifestyle.html

注2:

<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/hatarakikata/dai1/siryous3.pdf>

注3:

<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/jinsei100nen/pdf/chukanhoukoku.pdf>

注4:

<https://www.kantei.go.jp/jp/content/000023186.pdf>

注5:

<https://www.meti.go.jp/press/2018/12/20181212004/20181212004-1.pdf>

注6:

<https://www.meti.go.jp/press/2018/09/20180907010/20180907010-3.pdf>

注7:

<https://fumiaki-kobayashi.jp/archives/4139>

協会賞受賞

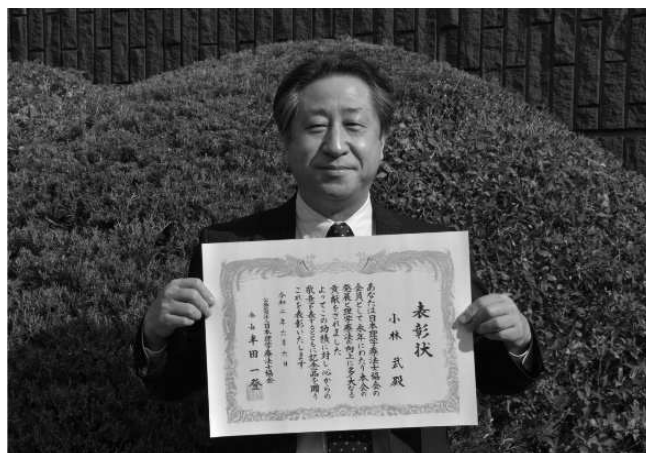
協会賞受賞にあたり

東北文化学園大学 医療福祉学部リハビリテーション学科
小林 武

この度は、公益社団法人日本理学療法士協会（以下、PT 協会）の協会賞を頂きましたこと、とても栄誉のあることと感動しています。

私は、第 39 回日本理学療法学会（宮城県仙台市で 2004 年に開催）で演題情報管理の仕事をさせていただき、それが縁となって PT 協会の学会大会部、学会システム委員会に所属することになり、online 演題管理・査読システムの開発と運用に 15 年間携わってきました。また、2008 年から東北ブロック協議会事務局で雑誌「東北理学療法学」の電子ジャーナル化、東北理学療法学会のあり方の提案、演題管理・査読システムの刷新等をコーディネートしてきました。これらは理学療法士の学術活動を支える役割であり表にでる活動ではありませんでしたが、そのようなことでも評価され表彰していただけたことを誠にうれしく思っています。

この賞は私個人の力ではなく、これまでに私を指導し育てていただいた多くの先輩と、自分を支えてくださった同僚の皆様のお陰であると実感しております。この場をお借りして心より御礼申し上げます。今後とも、多くの人たちにお力添えをいただきながら一生懸命仕事をしていきたいと思っておりますので、変わらぬご支援とご指導をよろしくお願いいたします。



新理事紹介

〈学術・教育局担当〉
東北文化学園大学
鈴木 博人

この度、宮城県理学療法士会（以下、県士会）の理事に就任いたしました、東北文化学園大学の鈴木博人（スズキ ヒロト）と申します。宮城生まれ・宮城育ち、生粋の宮城県民で、経験年数 11 年目の理学療法士です。出身校は東北文化学園大学で、卒業後すぐに同大学大学院に進学し研究活動を行いながら、宮城県内の病院（急性期・回復期）、施設・事業所（介護老人保険施設、特別養護老人ホーム、訪問看護ステーション）にて臨床での理学療法を学んで参りました。また、卒業後から母校の教員として学校教育に携わり、現在は身体運動学に関する科目を中心に担当するとともに、身体運動学・心理学の研究手法を用いた運動学習に関する研究を行っております。

私が県士会理事に立候補した大きな目的は「若い世代の理学療法士の声を吸い上げ、県士会の活動に反映させること」です。県士会は約 1800 名の会員で組織されており、会員構成は 20 代～30 代の理学療法士が 8 割を占めております。理学療法士の取り巻く環境も大きく変化し、我々へのニーズも広範囲に及ぶようになりました。このような社会変化の中で、これから先 10 年、30 年、50 年と理学療法士という専門職がさらなる発展を続けるためには、我々若い世代が新しいことに挑戦し、能動的に個々の相互作用を求めることで、新しい時代を担うための力をつける必要があると考えます。また、不器用に「若い世代だけ」、「理学療法士だけ」、「同じ志向の人だけ」で活動するのではなく、先を歩む先輩 PT はもちろんのこと、他領域・他職種とも積極的にタックを組むことで理学療法士の力を新たな形で顕在化させることができ、さらには社会貢献の幅を広げることにも繋がると考えております。

私は、これまでの教育・研究・臨床・地域で活動経験と、日本基礎理学療法士学会での活動及び現在の県士会での役割を生かしながら取り組んでいきます。そして、時には若い世代の旗振り役を、時には世代間を繋ぐ橋渡し役を務め、会員の皆様とともに変化し続ける県士会にしていければと考えます。そのためには会員の皆様のご協力が必要不可欠です。また、忌憚なきご意見をお寄せいただければ幸いです。どうぞよろしく願いいたします。

〈社会・地区担当局担当〉
株式会社ハートリア
石島 孝樹

今年度から、宮城県理学療法士会の理事を務めることとなりました。これまでは、青葉泉地区を担当させて頂き、各種行事のお手伝いをしてきました。青葉泉地区を担当するに当たり、PTの将来を担う若いスタッフが活躍できる場を提供できるよう心掛けてきました。今後も、地区単位での活動を通して、若いスタッフの活躍する場を提供し、担当地区の活性化に繋げて行ければと考えています。また、今年はコロナ禍の影響により、多くの行事を中止せざるを得ない状況となっています。そのため、感染状況に留意しながら現状に即した活動ができるよう、お手伝いさせて頂ければと考えています。今後も、会員の皆様と共に、より良い活動ができるよう努めて参ります。どうぞよろしくお願い致します。

〈社会・地区担当局担当〉
広南病院
関 崇志

この度、理事を拝命いたしました、広南病院の関でございます。微力ではございますが、宮城県理学療法士会の発展のため、皆様のご指導、ご鞭撻を賜り、誠心誠意、尽力いたす所存でございます。

これまで、地区担当局の太白名取地区ブロック長の任を務めてまいりました。年2回の地区研修会の開催や、地区内の連絡網の作成および運用など、地域の会員の皆様のご理解、お力添えがあって、これまで継続して行うことができました。この場をお借りしまして感謝申し上げます。今後は、引き続きブロック長としての任務を遂行していくとともに、当会の社会局、地区担当局の業務に携わりながら見識を広め、お役に立てるよう努力してまいります。

今年度は、COVID-19 感染の拡大によって、皆様におかれましては、それぞれの立場で大変なご苦労、ご奮闘を続けてこられたことと存じます。県士会、地区単位での活動におきましても制限を余儀なくされておりましたが、昨今、規模の縮小や web の利用といった感染対策を講じ、徐々に活動が再開されつつあります。会員の皆様の学びの場、社会貢献の場を維持、拡大していくために力を尽くしてまいりたいと存じます。

会費納入状況について

財務局 局長 新山 正都

令和2年度の会費納入状況についてお知らせいたします。

令和2年6月末日までに会費未納会員が未納退会となったため、会費未納率は0%となっております。未納退会者数は6名、昨年度と比較しますと未納者数、未納退会者数とも減少しています。

退会となった場合、会員としての権利や生涯学習履歴がすべて失われます。詳細につきましては、以下協会ホームページよりご参照くださいますようお願いいたします。

[日本理学療法士協会ホームページ](#) → [協会について 一覧](#) → [入会案内 各種変更届 年会費](#)

I. 会費納入状況について

	宮城県会員数	会費未納者数	未納退会者
2018年6月末	1,499名	72名	33名
2019年6月末	1,545名	45名	17名
2020年6月末	1,576名	12名	6名

II. 来年度県土会費について

今年度事業に於きましては、コロナ禍の影響により、提供方法の変更・中止など会員向け事業の計画変更が余儀なくされました。

宮城県理学療法士会といたしましては、**今年度年会費徴収者に対して、来年度のみ県土会費の減額**を決定いたしました。減額は来年度県土会費のみで、再来年度からは減額前の県土会費に戻りますことをご理解いただけますようお願いいたします。

なお、来年度年会費の徴収は前納制につき、2021年3月に協会より徴収される予定となっております。今後とも会費納入にご協力いただけますようお願いいたします。

令和2年度年会費 (協会費+県土会費 9,000円)

令和3年度年会費 (協会費+県土会費 8,000円)

第11回一般社団法人宮城県理学療法士会定期総会報告

第11回一般社団法人宮城県理学療法士会定期総会報告

事務局 総務部 高橋 利幸

令和2年9月29日(日)に第11回一般社団法人宮城県理学療法士会定期総会を開催することが出来ました。本来であれば令和2年5月17日(日)に開催を予定しておりましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症予防により延期をしておりました。その後は協議のもと、感染症対策を講じることで開催する運びと致しました。欠席された会員の皆様にも委任状の送付にご協力を頂きましてありがとうございました。開催内容を以下にご報告させていただきます。

【日時・会場】

令和2年9月27日(日) 10:00～11:30
東北文化学園大学 階段教室2

【定足数確認】

宮城県理学療法士会の会員数:1,482名
本人出席者:32名
委任状出席:773枚 出席者合計:805名
過半数以上の出席が確認され、定款第28条に定める定足数を満たしたため本会成立

【議案】

下記、第1～5号議案について承認可決された
第1号議案:平成31年度活動報告の承認を得る件
第2号議案:平成31年度決算報告の承認を得る件
第3号議案:役員変更の承認を得る件
第4号議案:令和2年度活動計画案の承認を得る件
第5号議案:令和2年度予算案の承認を得る件
第3号議案で承認された役員については、別紙「令和2年度 宮城県理学療法士会 役員名簿」の通りとなる

また、令和3年5月頃に第12回一般社団法人宮城県理学療法士会定期総会を予定しております。こちらも新型コロナウイルスによる社会情勢を鑑み、開催日程を協議して参ります。日程が決まりましたらアナウンス致しますので、開催の際にはご参加お待ちしております。

各局・委員会からのお知らせ

<学術局>

第24回宮城県理学療法学術大会について

学術局長:鈴木誠
学術大会部部長:鈴木博人

会期:2021年2月7日(日)

会場:東北文化学園大学(仙台市青葉区国見 6-45-1) +Web

テーマ:「予防から理学療法の未来を共につくる」

大会長:渡邊 好孝(医療法人社団光友会、宮城県理学療法士会会長)

準備委員長:鈴木 博人(東北文化学園大学、宮城県理学療法士会理事)

副準備委員長:五十嵐直樹(仙台リハビリテーション病院)

大会事務局:〒981-8551 宮城県仙台市青葉区国見 6-45-1 東北文化学園大学医療福祉学部内



➤ 特別講演

テーマ: 予防を射程に入れた理学療法モデル—ICF をこのまま使い続けていいの—

講師: 藤澤 宏幸 氏(東北文化学園大学大学院)

➤ 大会長基調講演

テーマ: 経営的視点から予防を考える=未来を management する

講師: 渡邊 好孝 氏(医療法人社団光友会・宮城県理学療法士会会長)

➤ 教育講演 1

テーマ: ストレッチングアップデート

—ストレッチングで“予防できるもの”と“予防出来ないもの”—

講師: 中村 雅俊 氏(新潟医療福祉大学リハビリテーション学部)

➤ 教育講演 2

テーマ: 最新知見を生かしたこれからの理学療法

—予防を目的とした超音波検査の活用—(仮)

講師: 平山 和哉 氏(東北文化学園大学医療福祉学部)

➤ 士会指定事業

➤ 一般演題(口述発表)



【参加について】

➤ 現地参加: 参加人数確認のため、以下の登録フォームへのアクセスをお願い致します。

<参加登録フォーム URL: <https://forms.gle/t3MkCc7JQFif1yWA7>>

➤ Web 参加: JPTA のマイページからの登録となります。マイページをご確認下さい。

「学術大会に参加して」

第23回宮城県理学療法学術大会(2020年2月2日(日)開催)2名の宮城県士会員より学術大会に参加したコメントをいただきました。

〈準備から発表までの時間が大きな経験に〉

国立病院機構仙台医療センター

松島 圭亮 さん

私は今回初めて学会での発表を経験させて頂きました。人前で話す事は元々得意ではありませんでしたが、今回の発表は私にとって大きな経験になったと思います。事前に職場の先輩方に発表を聞いて頂き、スライドのデザインや話し方など様々な指導を頂いてこの県学会に挑みました。しかし、いざ演台に立つと大勢の人からの視線に圧倒され、緊張から数回嚙んでしまうなどほろ苦い結果となってしまいました。貴重な経験ができた事には満足していますが、また発表する機会があればもう少し堂々と発表できるように準備していきたいと思います。



また県学会では私の発表テーマとは異なる様々な方の発表が聞けるのも魅力的でした。これまで関わることのなかった分野に興味を持つきっかけにもなると思います。

〈フレッシュマンセッションに参加して〉

イムス明理会仙台総合病院

高橋 美月 さん

学会発表と聞くと研究報告が多いイメージでであったため、一年目の自分には程遠いものだと思っていました。しかし、私が参加した県学会からフレッシュマンセッションという一年目を対象としたセッションを設定していただき、自分自身が普段臨床で考えていることをアウトプットすることができました。また、抄録やPowerPointの作成など学会発表に至るまでの行程も学ぶことができる有意義な機会でした。司会の先生方からは、質問だけではなく、今後の臨床に活かせるアドバイスを頂きました。今はこの経験を活かして臨床業務に取り組んでいます。



＜第39回東北理学療法学会大会準備委員会＞

第39回東北理学療法学会大会の進捗について

準備委員長 村上賢一(東北文化学園大学)

第38回東北理学療法学会大会が2020年10月17～18日に開催しました。第38回は山形県理学療法士会が運営担当で本来であれば山形テレサにて開催予定だったところを、コロナ禍によってWEB開催と変更を余儀なくされました。

第39回東北理学療法学会大会は、宮城県理学療法士会が運営担当で準備していますが、現状としてはトークネットホール仙台(仙台市民会館)での対面開催を第一に検討しているところです。WEB開催と対面開催併用でのハイブリット型開催も模索しているものの、費用という一側面から鑑みると莫大な経費が必要となるため非現実的と感じられます。

さて、現状では各種企画を以下のように予定しております。いずれもとても興味深く、みなさんの臨床に役立つことは請け合いです。特に、特別・教育講演は、普段の理学療法士学会では絶対に聞けない内容が盛り沢山です。私個人が注目しているのは、元駐ウクライナ兼モルドバ大使の馬淵睦夫先生の市民公開講座です。“馬淵先生の講演”というだけで、大観衆を呼べる企画であるため、「こんな機会が身近に開催されてよいのか・・・」などと恐縮してしまいます。是非、奮って参加をしてください。

大会テーマ:社会的身体から理学療法を再考する

会期:2021年9月11日(土)～12日(日)

会場:トークネットホール仙台(仙台市民会館)

大会長:藤澤宏幸(東北文化学園大学大学院)

事務局:東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科理学療法専攻

問い合わせ E-mail: 39th.tohoku.pt@gmail.com



〈大会企画〉

大会長基調講演「社会的身体から理学療法を再考する」藤澤宏幸(東北文化学園大学大学院)

特別講演「健康とは何かー新しい健康観と人生ー」山崎喜比古(日本福祉大学)

教育講演1「社会的身体から行為を考える」林大造(追手門学院大学)

教育講演2「日本人と尊厳死」伊藤道哉(東北医科薬科大学)

教育講演3「家族形態の変遷」山田昌弘(中央大学)

教育講演4「医療制度の国際比較」大森正博(お茶の水女子大学)

教育講演5「ICFにおける活動の概念-理学療法士モデルとの接点-」内山靖(名古屋大学大学院)

シンポジウム1「看取りと理学療法士の関わりー在宅医療との関りにおいてー」座長 中田隆文
(マリオス小林内科クリニック)

シンポジウム2「地域に生きる理学療法士としての貢献ープロボノの現状ー」座長 渡邊好孝(介護老人保健施設アルパイン川崎)

市民公開講座「日本人は何を大切に生きてきたのかー日本の国体と将来ー」馬淵睦夫

(元駐ウクライナ兼モルドバ大使)

モーニングセミナー「肩関節障害の理学療法(スポーツ領域)」村木孝行(東北大学病院)

治療技術 update1「心臓リハビリテーション」伊藤大亮(東北大学大学院)

治療技術 update2「がんのリハビリテーション」國澤洋介(埼玉医科大学)

治療技術 update3「変形性股関節症の理学療法」對馬栄輝(弘前大学大学院)

治療技術 update4「内部障害の理学療法」佐藤聡見(脳神経疾患研究所附属総合南東北病院)

治療技術 update5「脳血管疾患に対する理学療法の有効性」大畑光司(京都大学大学院)

治療技術 update6「疼痛に対する理学療法の有効性」松原貴子(神戸学院大学)

<教育局>

～ みなさん、新プロ、終わらせましょう！！～

教育局長 高橋 一輝

2021年4月より新生涯学習制度がスタートする予定でしたが、2022年4月からと1年延長となりました。新生涯学習制度開始以降の各会員の位置づけについては、本会への入会年度および現行制度上での履修状況によって異なります。日本理学療法士協会 HP「新生涯学習制度」には詳細の他にも、会員各々の現状をクリックすると位置付けが確認できるなどの情報がございますので、この機会に是非ご確認ください。

さて、宮城県士会としましては現在の新人教育プログラムの修了が進むよう講習会を設定しております。その一環としまして、本年度も集中プログラムを開催予定です。この両日のプログラムを履修すると、例え全てプログラムが未履修であっても修了することができます。新人会員のみならず、2年目以降の会員やベテランの会員も是非履修ください。もちろん1テーマからの部分履修も可能です。

申し込み方法ならびに最新情報は県士会の HP に記載しますので、確認の上で申し込みください。最近は無断欠席される会員が増えており、本会でも大きな問題となっております。責任を持って申込参加いただくようお願い申し上げます。

* コロナウイルス感染拡大により、日本理学療法士会の指針に則って開催を中止する場合があります。

* オンラインでの配信はありません。新人教育プログラムは e-learning でも受講できます。詳しくは、日本理学療法士協会 HP をご確認ください。

<2020年度 新人教育プログラム集中講義の開催>

日時:2021年1月23日(土)・24日(日)

場所:東北文化学園大学 階段教室Ⅱ

<プログラム> (2020.11時点での予定ですので変更となる場合があります)

日程	テーマ名・会場
2021年 1月23日(土)	A-1 理学療法と倫理 A-2 協会組織と生涯学習システム A-3 リスクマネジメント A-4 人間関係および接遇 A-5 理学療法における関連法規 B-1 一次救命処置と基本処置 B-2 クリニカル・リーズニング
2021年 1月24日(日)	B-4 症例報告・発表の仕方 D-1 社会の中の理学療法 D-2 生涯学習と理学療法の専門領域 E-2 コーチングとティーチング C-4 高齢者の理学療法 C-6 症例報告 * * 症例報告の履修条件は“発表”であり、聴講のみは単位付与不可です

コロナ禍における各施設の取り組み

<急性期>

当院における新型コロナウイルス感染症に対する対策

仙台医療センターリハビリテーション科
高橋 蓮

当院は、660床の急性期病院であり、3次救急を担っています。診療科は32科におよび、様々な疾患の診療を行っています。

当院リハビリテーション科では、PT17名、OT10名、ST5名、計32名のスタッフが所属しており、日々の診療に従事しています。現在、コロナ禍であり、院内感染を予防することが重要です。そのため、感染対策を十分に実施し、通常診療を実施しています。実施している感染対策は、①スタッフの行動記録、体調管理 ②スタッフ、患者さんのマスク装着 ③リハビリ室や物品の消毒 ④リハビリスタッフの限定 ⑤3密の回避です。詳細の内容は以下に記載します。

①スタッフの行動記録、体調管理

各スタッフが毎日検温し、症状の有無を確認し、行動記録を記載して1週間ごとに理学療法士長に提出しています。もし、スタッフが熱発した場合、スタッフの家族が熱発した場合などは、直ちに職場へ連絡し、指示を得ることになっています。

②スタッフ、患者さんのマスク装着

スタッフは当然ですが、リハビリを実施する患者さんに対してもマスクの装着を義務付けています。リハビリ室には、マスクの装着なしでは、入室不可としています。また、病棟でリハビリを実施する場合でも、患者さんにマスクを装着していただくようにしています。

③リハビリ室や物品の消毒、換気

朝礼後、スタッフ全員で、リハビリ室のベッド、手すり、物品、パソコンなどリハビリ室すべての消毒を行っています。また、各患者さんのリハビリ終了後にも適宜、使用したベッドや手すり、物品の消毒を行っています。

④リハビリスタッフの限定

熱発や肺炎などで入院した患者さんのリハビリ処方があった場合は、介入するスタッフを限定しています。濃厚接触者を増加させないように配慮しています。

⑤3密の回避

3密を回避するため、今年度のリハビリテーション科内での勉強会は中止にしています。また、昼食時は、時間を調整し、スタッフが密にならないように配慮しています。

<回復期>

コロナ禍における回復期リハビリテーション病棟での対策・工夫

社会医療法人 将道会 総合南東北病院
安孫子 洋

当院は一般病棟、回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟からなる271床のケアミックス病院です。救急指定病院でもあり、介護老人保健施設、通所リハビリ、訪問リハビリなどを併設し、地域を支える病院として多職種が連携して診療にあたっています。

2020年2月下旬以降、どの病院、施設も大変苦労しながら、救急・地域医療、介護、福祉に取り組まれてきたことかと思えます。今回、回復期リハ病棟を持つ1施設として対応したことについて報告いたします。

まず、当法人では、コロナ禍以前より、アルコールによる手指衛生の徹底、感染流行期にはマスク着用、出勤時の職員の感冒症状や消化器症状など体調チェックを実施していたため、そちらは継続し、サーマルカメラなどでの検温等入館管理も実施するようになりました。リハビリテーション科では入院患者と外来リハビリ患者との接触を減らすため、訓練室を時間帯や曜日によってゾーニング、入室経路も分断しました。職員は第1波の頃はフェイスシールド、アイシールドを使用することもありました。また、現在も職員の食事の場所も講堂なども解放し、時間的、空間的に対策をし、3密を回避しながら勤務しています。

回復期として最も苦慮したことは、退院支援に関してです。通常これまでは頻繁に、家族、介護支援専門員などにリハビリの見学をしていただき、リハビリの進捗状況の確認ができていました。コロナ禍においては面会制限があり、進捗確認には動画撮影などで状況の報告をする形が増えてきました。また、家族指導にも同様に制限があり動画提供だけでは進まないケースもあり難渋しました。さらに、試験外出・外泊も制限されたことで、実際の在宅環境での課題抽出が困難となりました。回復期の退院支援の一環として重要な退院前訪問指導も大きく制限を受けて、ほぼ実施を見合わせる結果となり、写真の提供や、本人家族からの聞き取りで模擬的に動作練習を行う、福祉用具・住宅改修のアドバイスを行うこととなりました。よりリアルに在宅生活のイメージを持つこと、そこに関わる経験があることなどが重要であり、今後新しい時代に合わせた環境の整備、医療者側の意識改革などが必要だと感じています。withコロナ、ニューノーマルの時代として、在宅への橋渡しとして、当院ではジョブローテーションを活用し、回復期の段階から在宅生活に必要な

ものを十分に予測出来ること、知識や経験を十分に持ち合わせていくことをすすめ、地域医療に貢献していきたいと思えます。

<生活期>

コロナ禍における対応について

医療法人 松田会 介護老人保健施設
エバーグリーン・イズミ
江戸 一臣

私は訪問リハビリテーションにて利用者様と関わらせて頂き、コロナウィルスの流行によって、それまで当たり前であった生活から一変したことを強く感じています。

緊急事態宣言以降は、入所リハビリテーションでは面会が行えないため、タブレットにてテレビ電話でご家族様とお話できるようにしています。通所リハビリテーションでは一時的に新規利用を停止し、利用者様の利用回数を減らす、アクリル板をテーブルに設置する、集団での活動や行事イベントは行わないなど対応がとられました。利用者様から密になる通所リハビリテーションをお休みしたいと希望があった場合には、訪問リハビリテーションを提案し、できる限り在宅生活をお変わりなく継続できるようにしていました。コロナ禍であっても訪問リハビリテーションの需要が高まり、サービスを切り替えて利用されることが多くなりました。

訪問リハビリテーションでは、基本的に利用者様にマスク着用をお願いしています。リハビリテーション中にマスク着用が困難な方に対しては、スタッフがマスクに加えてフェイスシールドを着用するようにしています。しかし、マスクやフェイスシールドが利用者様との間にあることで、表情の読み取りにくさや運動負荷が上がってしまうことがあります。そしてコロナウィルスが流行する以前より、利用者様の変化に気付くことが難しくなりました。そのため、それまで当たり前としていた評価方法や負荷量を見直し、マスクした状態で安全に行えるリハビリテーションを利用者様に合わせて実施するようにしています。

利用者様からは、「コロナが恐くて出かけたくなかったから、来てくれてありがとう。」や「リハビリは続けることが大事だね。」という言葉が頂戴しました。楽しみにしていた通所リハビリテーションが通えなくなった方にこのような言葉をかけてもらい、コロナ禍であっても私たちに何が出来るかを考

えるとともに、ご自宅にお一人でこもりきりにならず人と人とのつながりを切らさないこと、どんな状況であってもリハビリテーションは必要であることを痛感しました。

臨床実習生への各施設での対応の工夫やポイント

仙台リハビリテーション 川上 真吾

2019年12月、中華人民共和国湖北省武漢市において新型コロナウイルス感染症が確認され、2020年度下半期に入っても未だ収束には至っていません。2020年度は、診療報酬改定年度でもあったことから、各医療機関では、診療のみならず感染症への対応と医療体制の整備・変更に追われたことと思います。リハビリテーション学校教育においても2020年度は大きな転換期を迎える年度であったことは周知の事実です。2020年度入学生より適用となる新カリキュラムでは、診療参加型臨床実習が望ましいと明文化され、臨床実習における1単位の時間数が「1単位を40時間以上の実習をもって構成することとし、実習時間外に行う学修等がある場合には、その時間も含め45時間以内」と見直されました。よって、各臨床実習受け入れ施設では、診療形態等を鑑みた臨床実習体制の検討を進めてきたと思います。当院も例外ではなく、2020年度以降の臨床実習に向けた検討を重ね「診療参加型臨床実習サポートシステムマニュアル(以下、マニュアル)を作成し、臨床実習環境の整備を行ってきました。2019年度から、試験的な運用を開始し、浮彫となった学びに関する課題を中心にマニュアルの改訂(2020年度版)を実施していました。しかしながら、このような感染症の流行は想定しておらず、感染症流行期間における対応という観点では十分な検討がなされてはいませんでした。新たに、当院の感染症対策指針(院内周知事項)および感染症流行期間における診療環境を考慮し、臨床実習実施の課題ならびに対策方法の検討を進め、マニュアルを一部修正しました。その検討事項に基づき、臨床実習受け入れ前において、当院における臨床実習の可能範囲とその制限について説明し、養成校における臨床実習目的と相違等がないか協議しました。以下に示す項目は代表的な協議内容となります。①公共交通機関利用に伴う三密の回避を目的とした1日における臨床実習時間の変更(開始:9時30分 終了:17時15分 計7時間)、②診療参加する患者の制限および実施できる行為の範囲、③実施できる行為の範囲に伴う課題(養成校が求める)への影響、④実習生の住所・利用する公共交通機関とその経路となります。現在(10月時点)、数名の実習生が臨床実習を行っています。

類例のない状況下での臨床実習であり、各養成校ならびに実習施設において、多くの課題を抱え、その対応に苦慮していると思われまます。今後の在り方について、養成校ならびに実習施設間で協議する場の重要性を感じています。

リハビリテーション専門職協議会活動報告

事業局 局長 櫻井 健太郎

毎年7月に開催しておりました全国統一介護予防・健康増進キャンペーンは日本理学療法士協会主催の各種研修会等の自粛に伴い、今年度の開催は中止となっております。協会より改めて来年度は7月開催に向けて事業協力の依頼が来ておりますが、新型コロナウイルス感染症対策等の措置を考慮しながら事業計画を立案していきたいと考えております。

また、併せまして交流会事業につきましても新型コロナウイルス感染拡大防止のため3密回避を厳守するとともに、事態の終息に伴いまして事業開催とさせて頂きたく思います。

市町村委託事業につきましては、上半期の自粛期間から徐々に地域住民による通いの場等の再開がなされております。自粛期間中の活動性低下により生活不活発となっている方々が増えていくようで、セラピストの派遣事業についても様々な形で徐々に再度ご依頼を頂いている状況でございます。通いの場への講師派遣などの依頼に対してはタイムリーな対応が要求されますので、引き続きご協力お願い致します。

宮城県リハビリテーション専門職協議会で受託しております市町村事業につきましても事業自粛という形がとられておりましたが、仙台市では「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う仙台市の事業及び施設等の取り扱いに係るガイドライン」に準じてサロンへの派遣、地域ケア個別会議で必要となった対象者に対してアセスメント訪問事業を再開しております。他市町村からの地域リハビリテーション活動支援事業につきましても感染対策を十分に行いながら事業再開の目途が立っている状況です。例年お受けしております障害者スポーツ協会様からの委託事業でありますパラスポーツ2020につきましても今年度は日程を短縮した形で事業が終了し、理学療法士、作業療法士の先生方を派遣しております。こちらの事業につきましても市町村の方々、作業療法士会、言語聴覚士会と密に連携を図りながら事業を進めてまいります。

全国都道府県士会 学校保健・特別支援教育担当者会議について

学校保健・特別支援教育担当
鈴木 誠(東北文化学園大学)

去る2020年11月15日(日)、Zoomを使用したWeb会議にて「第2回全国都道府県士会学校保健・特別支援教育担当者会議 東日本地区会議」が行われました。会議は東日本地区の都道府県士会の担当者が集まり、前半は「学校保健及び特別支援教育の現状と課題」というテーマにて講演がなされました。後半にはグループワークが行われ、「各士会における学校保健及び特別支援教育への教育的理学療法介入支援の現状と課題」というテーマについて意見交換が行われました。

学校保健の領域においては、中学校や高等学校の運動部への関わりなど理学療法士一人一人が行っている「個」の活動を組織全体(県士会や協会)が十分に把握出来ていない現状がグループワークで共有できました。また、今回のコロナ禍において、学校現場における運動機会の減少という実情が報告され、同時に子どもたちの運動再開に伴う傷害・障害予防に対する理学療法士の専門性が活かせる場面が多くなるのではないかという意見が共有できました。

また、特別支援教育の領域においては、学校関係者に活動の重要性を理解して頂く方法、医療機関と教育現場間の情報共有方法、教員と理学療法士では、子どもたちの成長に対する視点が異なるという現状と課題を共有することができました。今後は、子どもたちの日常を最も知る教員と医療機関の情報共有を円滑にするため、理学療法士が間に入り調整することも重要な活動となるのではないかという活動の発展性についても情報共有ができました。

今後、益々学校保健や特別支援教育での理学療法士の専門性を発揮した活動が社会から求められていくと思います。そんな中で、我々理学療法士は日々の理学療法実践で用いる推論モデルや治療モデルに加え、学校保健や特別支援教育という領域での活動に必要な「理学療法モデル」についてもしっかりと議論を重ねておかなければならないと思います。また、現在の活動に続く新たな人材育成や支援も必要であると考えます。今後、宮城県士会としても学校保健や特別支援教育で活躍する会員を支えるため、活動状況の把握に努めて参りたいと思います。また、そのような活動の支援にも力を入れて行きたいと思います。

若手理学療法士活躍推進委員会報告

E-nudge(若手理学療法士活躍推進委員会)について

若手活躍推進委員会(E-nudge)・委員長
鈴木 博人

2020年1月に若手理学療法士活躍推進委員会が発足しました。当委員会は、宮城県士会の構成員の大部分を占める「20代・30代の若手理学療法士」の活動・交流を促進させることで、宮城県士会全体の活性化を図ることを目的としております。また、女性理学療法士活躍推進と国際協力推進の2つの役割も担っており、女性PT活躍推進担当を水戸奈津美(みとなつみ)氏(仙台市職員)が、国際協力推進担当を三田村徳(みたむら あきら)氏(東北医科薬科大学)が務めております。これまで宮城県士会で取り組まれてきた活動指針を大切にしながらも、以下の3つの基本方針を大事にしながら新たな視点を取り入れた企画を進めていく予定です。

- ①仲間とともに、新たな一歩の可能性を考える。
- ②新しい事に挑戦し続け、理学療法の楽しみ方を探究する。
- ③多様性の理解から未来を創造する。

また、委員会の愛称を「E-nudge(イーナッジ)」と名付けました。Nudgeは「目的を達成したい人の気持ち・行動を促す」、「理想的な目的をもっていない人に理想を持てるように後押しする」という2つの意味を持っています。そのため、このEに様々な視点(Enjoy、Education、exchange、Engagement、Experience、Evolution…etc)を代入し、宮城県士会会員が「やりたい」と思えるようなことを発案していきたいと考えております。イーナッジ、ナッジ、好きなように読んでいただければ幸いです。

コロナ禍以前においては、交流会の企画はもちろんのこと、「PT×異文化～増えてきた外国人患者への対応～」や「PT×リハ栄養～食べながら考える～」など、これまでにない研修会のスタイルを計画しておりましたが、コロナ禍以降の制約により実現できませんでした。現在はこのような状況においても実現可能な方法を模索し、新たな企画を検討しております。いくつかご報告させていただきますと、まず、宮城県理学療法士会のLINEアカウントを立ち上げました。こちらでタイムリーな情報を発信しておりますので、ぜひご登録ください。(登録しても、個人のIDが知らされることはありません。)また、オンライン新人歓迎交流会を実施致しました。こちらの模様は次頁にて報告させていただきます。さらに、会員の皆様の意見をお聞きたく、国際協力・研究・働き方の3つのテーマでアンケート調査も実施させていただきました。こちらの結果は第24回宮城県理学療法学会で報告させていただく予定です。

これからも精力的に活動して参りますので、ご協力のほどよろしくお願い致します。また、一緒に活動したいという方も歓迎ですので、ぜひお声がけください。お待ちしております。



若手理学療法士活躍推進委員会
LINE公式アカウント

「オンライン新人歓迎交流会 ― 報告 ―」

去る9月27日(日)にオンライン新人歓迎交流会を開催いたしました。

新人歓迎交流会の企画は「新たに MPTA の仲間となった新人理学療法士を歓迎し、新人理学療法士(以下、新人 PT)同士や先輩理学療法士との繋がりを作っていただくこと」を目的に、5月の新人オリエンテーションに合わせた開催を計画しておりました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できず、社会的な情勢にも大きな変化がない現状にて通常の交流会開催は難しいと判断いたしました。

そこで今回、一つの挑戦としてオンライン会議システムを利用した交流会を催しました。参加者の皆様にはご不便おかけしたところがあったと思いますが、ご協力により有意義な時間とすることができました。ご参加いただき、ありがとうございました。

理学療法士として10年を迎え、私は一人でできることの小ささと、人の力を合わせることで生まれるパワーの大きさを痛感しております。当委員会として、気軽に情報共有できるネットワーク・仲間の形成をアシストし、「理学療法をすることが楽しい」と思える環境を作れればと考えております。引き続き、皆様のご支援をお願いいたします。

<参加者の感想>



仙台リハビリテーション病院
鈴木勇太

現在、新型コロナウイルス感染症の影響で他の病院の新人 PT の方々と交流することが難しい状況において、短い時間ではありましたが、今回のオンライン新人交流会を通して交流できたことはとても有意義な会だったと感じています。他の病院の新人 PT がどのように働いているのか、何に不安を感じているかなど多くのことを共有できたのではないかと思います。また、どのような仕事をしているかを知ることで、自分にとってもとても良い刺激になりました。今回の交流会を活かして、他の病院の理学療法士との交流も増やしていきたいと思いました。



医療法人松田会松田病院
鈴木利佳子

他の医療機関に所属している同期と話すことが出来る交流の場を作っていただきありがとうございました。現在、感染症の流行により数々のイベントも中止や延期となっている中、オンラインで気軽に交流できる場はとても貴重だと思いました。普段も回復期病棟の同期との交流が主になっていたため、今後も他の医療機関の同期と意見交換する場がもてると嬉しいと思いました。今回の交流会では 3 回ブースに分かれての交流でしたが、私は少し人見知りの部分があるため場を仕切って下さる先輩方に助けられました。これから、研修会等で同期と会う機会があると思われるため、このような交流会を大切にしていき各々で情報共有が出来ると良いと思いました。また機会があればよろしく願いいたします。



イムス明理会仙台総合病院
齊藤 稔希

今回の交流会では、他の病院で勤めている同年代の PT が、何に悩んでいるのか、自分の考えや取り組み方のアウトプット、どんな働き方をしているかなど様々な事を共有できたりして有意義な時間を過ごせました。

また、経験年数の高い PT からのアドバイスがあり、1 年目の過ごし方について自分の中で再確認ができました。仕事の話だけではなく、気楽にプライベートの話もでき、とても楽しかったです。機会があれば、直接話をしたり、聞いたりする時間もあるといいなと思いました。

今回、このような機会を設けて頂き、ありがとうございました。

臨床実習指導者講習会について

宮城県臨床実習指導者講習会全体協議会
鈴木誠(東北文化学園大学)

理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則の2020年度改正に伴い、「臨床実習」が大きく変わろうとしています。既に当士会においては2019年度に計6回の臨床実習指導者講習会を開催し、総勢422名の講習会修了者を輩出することが出来ました(2020年9月時点)。これは開催回数としては全都道府県士会中第4位、講習会修了者輩出数としては第6位の成績となります。これもひとえに、関係者の皆様方のご支援の賜物であると改めまして御礼申し上げます。

2020年度の運営につきましては、当初2019年度のように県内各養成校での開催を計画しておりました。しかし、年度当初より新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、臨床実習指導者講習会の開催を断念せざるを得ない状況となりました。よって、2020年度においては、県内での臨床実習指導者講習会は開催を予定しておりませんので、ご理解の程よろしくお願い致します。

現在、2021年度の開催に向けて、宮城県理学療法士会並びに宮城県臨床実習指導者講習会全体協議会にて検討を進めております。日本理学療法士協会からは密を避けた対面形式での開催を中心に、感染予防に努めた方法での実施が提示されており、それらを参考に計画を進めております。また、現在日本理学療法士協会では臨床実習指導者講習会の「オンライン形式」での開催方法が検討されており、こちらについても今後の動向を注視しているところでございます。こちらにつきましても、今後県士会員の皆様に向けて情報発信をさせて頂く予定でおります。

引き続き、県内各施設の講習会修了者を一人でも多く養成することを目標とし、運営に努めて参りたいと思います。また、今後臨床実習での学生指導には、臨床実習指導者講習会の修了が必須となるため、各施設におかれましてはスタッフの計画的な講習会受講を進めて頂ければと思います。

宮城県理学療法士連盟 活動報告

宮城県理学療法士連盟会長 羽田智大

いつも宮城県理学療法士連盟の活動にご理解とご協力頂きましてありがとうございます。また、新型コロナウイルス感染症の勢いが収まらない大変な中、宮城県理学療法士連盟に38名もの理学療法士が新しくご入会頂きましたこと、この場をお借りいたしまして厚く御礼申し上げます。

さて、まずはうれしいお知らせからです。2020年10月27日、日本理学療法士連盟政策推進顧問の小川かつみ参議院議員が参議院厚生労働委員長に就任いたしました。もちろん、理学療法士としては初の快挙です。

厚生労働委員会とは17の常任委員会のひとつで、年金や医療、介護、福祉、雇用・労働問題など国民生活に密接に関連した議案や請願などを専門的に審査し、また国政調査を行う委員会です。

2020年11月19日にはさっそく委員長として厚生労働委員会をまとめる小川議員の雄姿がネットでライブ配信されました。田村厚生労働大臣と厚生労働委員の質疑応答を取り仕切る役回りです。お時間ございましたらご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=sexltlUEAQc>

さらに、新型コロナワクチンを無料にする「改正予防接種法」のニュース(12月2日)でも小川議員は重要な場面で映り、厚生労働委員長の役割の大きさを感じさせます。

<https://www.youtube.com/watch?v=ZV9GF7p91nM>

他にも小川議員にはPT・OTの国家試験における濃厚接触者の取り扱いについて厚生労働省に働きかけをして頂き、通知改定までこぎつけることができました(11月30日付)。もともと濃厚接触者は問答無用で国家試験は受験不可でしたが、卒業生の就業の機会が1年先延ばしになることの懸念の声が養成校側から強くあり、厚生労働省の担当局長に働きかけた結果、実現したものです。

このようにある政策に対する現場の理学療法士の素早い反応や声というのは議員のアクションにつながり、ならぬものを動かす原動力になります。その力を理学療法士はもっているわけで、どの職能団体も皆もっているわけではない、この恵まれた環境、組織、活動を維持していくのが筋です。特にコロナ禍や社会保障改革の嵐の中においては、どんな団体も政策に大きく振り回されるものです。ですから、皆で植えたこの希望の種を大切に育て、暑いときには日陰に入り、雨が降るときには雨宿りができる大きな樹に育ててまいりましょう。

令和2年度地域ケア会議推進リーダー・ 介護予防推進リーダー導入研修について

令和2年10月

宮城県理学療法士
会員各位

一般社団法人宮城県理学療法士会
会長 渡邊 好孝
地域包括ケア人材育成委員会
委員長 吉田 望

R2年度 地域ケア会議推進リーダー・介護予防推進リーダー 導入研修のご案内

謹啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、公益社団法人日本理学療法士協会では、『地域包括ケアシステム』を推進するにあたって、【地域ケア会議推進リーダー】【介護予防推進リーダー】の2つの認証コースを平成26年より設定し、地域包括ケアシステムに関わることのできる人材の育成を行っております。

宮城県内各市町村でもコロナ禍ではありますが、地域ケア会議が順次開催され、助言者として参加されている理学療法士の数も増えている現状です。是非会員の皆様にはリーダーの取得を目指していただき、地域における理学療法士の職域の拡大に繋げていきたいと思っております。

本年度の導入研修は新型コロナウイルス感染症予防を考慮し、オンラインにて研修会を実施することとなりました。取得には一定の条件が必要となりますので下記をご参照の上お申し込みをお願いいたします。皆様のご参加をお待ちしております。

謹白

記

1) オンライン研修会名(日時):

地域ケア会議推進リーダー 導入研修(令和3年1月23日 土曜日)9:00~16:00
 介護予防推進リーダー 導入研修(令和3年1月24日 日曜日)9:00~16:00

※取得したいリーダーについて、どちらか一方もしくは両日でのお申込みになります

2) 対象者:

宮城県理学療法士会の会員であり、協会 HP マイページ上での推進リーダー登録を行い、下記の①かつ②に該当するもの

- ① 新人教育プログラムを修了している者
- ② 協会指定の e-ラーニングを受講した者(講習会までに受講終了見込みも含む)

※e-ラーニング免除要件に該当する者は、登録申請をすることで免除されます。

詳細に関しては日本理学療法士協会 HP「地域包括ケアシステムに関する推進リーダー制度」を参照して下さい。

http://www.japanpt.or.jp/members/lifelonglearning/jinzai_ikusei/edu_houkatsu/

3) 参加費: 無料

4) オンライン研修概要: 講師 宮城県理学療法士会 地域包括ケア人材育成委員会 委員

地域ケア会議 推進リーダー (1月23日)	①地域包括ケアシステムについて ②地域ケア会議とは(必要とされる背景と位置づけ) ③地域ケア会議に求められる理学療法士の役割 ④模擬会議の実際と心構え
介護予防 推進リーダー (1月24日)	①介護予防・日常生活支援総合事業とリハ専門職の取り組みを知る ②介護予防事業の展開方法 ③介護予防の実践 ④介護予防事業の企画立案

5) オンライン研修受講の注意について

- ◆ZOOMを使用するのオンライン研修となりますので、事前にZOOMをインストールし作動確認をお願いいたします。長時間の研修であるためパソコンでの参加を推奨すると共に、インターネット環境が良いところでの受講をお勧めいたします。
- ◆カメラ・ビデオ撮影・録音等は、講演者の著作権保護のため禁止させていただきます。またスライド等の画面共有資料の撮影(スクリーンショット等)および SNS 拡散も禁止させていただきます。
- ◆資料は事前にメールにて取得方法をお知らせいたしますので、各自プリントアウトしてご参加ください。

6) 申込方法: 令和3年1月15日(金)までに以下のアドレスに必要事項を記入し申し込んで下さい。

その際、件名は「地域ケア会議推進リーダー導入研修」もしくは「介護予防推進リーダー導入研修」と受講希望研修を明記して下さい。

- 必要事項** ①氏名、②フリガナ、③協会会員番号(8桁)、④生年月日 ⑤所属施設名
 ⑥メールアドレス(ZOOMのID、パスワード、資料データを1月18日頃送信します) ⑦受講希望研修日時

7)今年度指定事業について

◆ 仙台市介護予防月間（ボランティア参加）

生出地区 11月20日（金）

福室地区 11月13日（金）

⇒ 介護予防推進部の FAX 通信もしくは宮城県理学療法士会 HP より 11月10日までに申し込み下さい。

◆ 宮城県理学療法学会の指定講座受講

日時：令和3年2月7日（日） ⇒ 当日会場にて参加受付いたします。

以上

《推進リーダー取得のメリットは？》

- 専門理学療法士や認定理学療法士資格取得に関して、該当する領域において「生涯学習機構の定める資格」として40ポイントが認められます
- 地域ケア会議や介護予防に関して一定の知識・技術を有していることの証明となります

【申し込み・推進リーダーに関するお問い合わせ先】

一般社団法人宮城県理学療法士会 地域包括ケア人材育成委員会 阿部 旭 宛

E-mail : chiiki.hokatsu@gmail.com

役員名簿

令和2年度 宮城県理学療法士会 役員名簿

部局		氏名	勤務先	
理事	会長	渡邊 好孝	医療法人松田会 医療法人光友会アルパイン川崎	
	副会長 (事務・財務・事業局担当)	藤野 隆喜	東北労災病院	
	副会長 (学術・教育局担当)	村上 賢一	東北文化学園大学	
	副会長 (社会・地区担当局担当)	阿部 功	総合南東北病院	
	副会長 (委員会担当)	榊 望	仙台リハビリテーション病院	
	理事 事務局長	藤野 隆喜		
	理事 財務局長、事務局次長	新山 正都	大和町たかはし整形外科クリニック	
	理事 事業局長	櫻井健太郎	仙台東脳神経外科病院	
	理事 学術局長	鈴木 誠	東北文化学園大学	
	理事 教育局長	高橋 一揮	東北文化学園大学	
	理事 社会局長	阿部 功		
	理事 地区担当局長	羽田 智大	仙台医健・スポーツ&こども専門学校	
	理事 事務・財務・事業局担当	高橋 利幸	エバーグリーン・ツルガヤ	
	理事 学術・教育局担当	鈴木 博人	東北文化学園大学	
	理事 社会・地区担当局担当	石島 孝樹	株式会社ハートリア	
	理事 社会・地区担当局担当	関 崇志	広南病院	
	理事 各種委員会等担当	坪田 朋子	自宅	
監事	監事	遠藤 伸也	齋藤病院	
	監事	黒後 裕彦	東北文化学園大学	
	監事	三浦 幸一	国立病院機構 仙台西多賀病院	
相談役	相談役	田中 文男	自宅	
	相談役	永井 淳一	自宅	
事務局	総務部	総務班 (部長)	高橋 利幸	
		会員管理班	加藤 佐市	仙台市南部発達相談支援センター
	広報部	渉外班 (部長)	渡邊 広枝	東北労災病院
		広報班	佐々木友也	仙台リハビリテーション病院
事業局	公益事業管理部 (部長)	片山 望	国立病院機構 仙台西多賀病院	
	士会事業管理部 (部長)	石田 美樹子	仙台エコー医療療育センター	
	法人事業管理部 (部長)	櫻井健太郎		
財務局	会計部 (部長)	古山 智子	特別養護老人ホーム とみざわの里	
学術局	学術大会部 (部長)	鈴木 博人		
	専門領域研究部	神経理学療法研究班	吉田 高幸	松田病院
		運動器理学療法研究班 (部長)	坂上 尚徳	仙台青葉学院短期大学
		内部障害理学療法研究班	藤村 伸	東北医科薬科大学病院
		物理療法研究班	村上 賢一	
		地域理学療法研究班	桂 理江子	東北文化学園大学
教育理学療法研究班	鈴木 誠			
教育局	学術誌部 (部長)	高橋 一揮		
	教育部 (部長)	阿部 玄治	東北文化学園大学	
	生涯学習部 (部長)	鈿明佳代子	東北文化学園大学	

社会局	スポーツ・健康増進支援部（部長）		千葉 渉	松田病院	
	介護予防・健康づくり推進部（部長）		佐藤 大樹	介護老人保健施設サニーホーム	
	医療保険部（部長）		金子亮太郎	松田病院	
	介護保険部（部長）		阿部 功		
地区担当局	県南地区		安孫子 洋	総合南東北病院	
	太白名取地区		関 崇志		
	青葉泉地区		石島 孝樹		
	宮城野若林地区		片岡 洋樹	仙台医健・スポーツ&こども専門学校	
	大崎栗原地区		門脇 敬	大崎市民病院	
	石巻登米地区		伊東 貴広	石巻健育会病院	
	気仙沼地区		小野寺裕志	気仙沼訪問リハビリステーション	
常設委員会	災害支援対策委員会		坪田 朋子（委員長）		
	組織検討委員会		榊 望（委員長）		
	スポーツ医科学推進委員会		小野寺真哉（委員長） 仙台北部整形外科		
	3職種リハ振興委員会		阿部 功（委員長）		
	地域包括ケア人材育成委員会		吉田 望（委員長） 仙台リハビリテーション専門学校		
	政策検討委員会		齋藤 寛太（委員長） 介護老人保健施設はまなすの丘		
	若手理学療法士活躍推進委員会		鈴木 博人（委員長）		
	情報通信活用委員会		小野部 純（委員長） 東北文化学園大学		
特別委員会	各種記念事業委員会				
	選挙管理委員会		舟山 伸利	仙台赤十字病院	
			小石川紀男	イノマタデンタルクリニック	
選出委員	東京オリパラ推進支援委員会		千葉 渉		
	第39回東北理学療法学会大会準備委員会		村上 賢一		
	日本理学療法士協会代議員		渡邊 好孝		
			藤野 隆喜		
			榊 望		
			村上 賢一		
			阿部 功		
			櫻井健太郎		
	東北ブロック協議会	理事		渡邊 好孝	
				新山 正都	
		学術局学会部		小林 武	東北文化学園大学
		学術局機関紙編集部		芝崎 淳	総合南東北病院
	学術局教育研修部		川上 真吾	仙台リハビリテーション病院	
宮城県リハビリテーション専門職協会	理事		渡邊 好孝		
			藤野 隆喜		
			櫻井健太郎		

FAXニュース配信について

◇広報班では研修会などのご案内を GIMP ニュースとして会員各施設に FAX で配信しております。

現在 FAX が届いていない施設や登録番号が変更された施設の代表者の方はお手数ですが、下記までご連絡頂きますようご案内申し上げます。

また代表者(宛名)が変わられた施設もご連絡頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。

県士会ニュースおよびホームページへの掲載依頼について

県士会ニュースと県士会ホームページへ掲載を依頼される場合は、広報部広報班までご連絡ください。原稿は、WORDまたはテキスト形式を基本とします。PDFファイルへも対応は可能ですが、適切に印刷(掲示)されない場合があります。また掲載が適切ではないと判断された場合には、ご意向に添いかねることもありますのでご了承ください。

またご不明な点やご希望等ございましたら、下記までご連絡ください。

宮城県理学療法士会 広報部広報班

宛 先: 〒981-3341 富谷市成田1丁目3-1

仙台リハビリテーション病院 リハビリテーション部 佐々木友也 高橋 歩

TEL : 022-351-8118 FAX : 022-351-8126

E-mail: news.edit@pt-miyagi.org

次号県士会ニュース締切: **2021年3月10日まで**

発行日: 2020年12月21日
発行: 一般社団法人宮城県理学療法士会
代表者: 渡邊 好孝
編集: 佐々木友也 高橋 歩
印刷: 合同会社P・プログレス
〒983-0021 仙台市宮城野区田子2-33-17

